

安全対策表導入しスタッフと情報共有

転倒の危険性ネームバンドで色分け

白石区の札幌白石記念病院（野中雅理事長・103床）は、転倒転落のリスクや危険行動など入院している患者情報を一覽にした安全対策表を導入し、毎日更新する情報はデータベース管理ソフトを通じて院内で共有。また患者のネームバンドに転倒転落のリスクを色分けで表示し視覚化すること、全スタッフが患者の状況を把握できるようになり、転倒転落防止に努めている。

同病院は脳疾患患者が多く、転倒転落の危険性や歩行介助、トイレ内見

守りなどが、入院直後や治療後などで大きく変化することから、状況に応じて毎日スタッフが患者の現状を把握しておく必要性があった。

そこで運動障害や視覚・聴覚障害、トイレや服薬などの状況23項目を各1〜3点で点数化する独自のアセスメントスコアシートを作成。受け持ち看護師が入院直後のほか、毎週火・金曜日、治療後、集中治療室転室時、病棟転階後などの際に評価し、合計点数で転倒転落のリスクをA〜Dの4段階に分けて分類し

安全対策表は院内の全スタッフが閲覧でき、看護補助者・リハビリスタッフは常時印刷して携帯、検査技師などはパソコン上で確認し、必要な介助を行っている。さらに患者のネームバンドには、転倒転落の危険性によって▼青・危険がほとんどない▼緑・可能性がある▼黄・危険性がある▼赤・危険性が高いとして色分け表示し、リスクを視覚化する

こと、全スタッフが共有し、転倒転落防止に努めている。藤澤典史臨床工学技士（医療安全管理者兼務）は「ネームバンドの色分けは患者や家族にも説明しており、自覚を促す効果にもなっている」と説明する。

安全対策表は電子カルテともリンクしており、受け持ち看護師が勤務ごとに患者状態を見直してナースコールの有無や危険行動、必要な対策、歩行、トランス、車いす、トイレ、ベッド柵の状況を電子カルテに記載すると随時更新される。リハビリスタッフはリハビリ中に患者状況に変化を感じた際は担当の受け持ち看護師と相談し、安全対策表を更新。患者